
双羽 h u t a b a

希羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

双羽 h u t a b a

【Nコード】

N 4 4 0 8 0

【作者名】

希羽

【あらすじ】

詩集第二号です。

お墓の上に置くお花感覚で書いていこうかな。 やっぱやめようかな。

まあ気分ってことでよろしくお願いします。

nyokix2(前書き)

最近羽が生えたっぽいですはい。

nyokix2

横断歩道を歩き始めて日が陰ったときにふと前置きも無く何かに気づいた

左折を試みる車に何の気も使わず 肌寒さに少し肩を縮めてポケットに手をつ込んだ

相変わらず世界はちょっと僕に冷たくって それでも前よりちょっと仲良くなってる

マイペースな僕にクラクションを鳴らす人もいるけれど それはそれでまあそんなにどうということもないかなって思える

それで

僕はやっぱりちょっとみんなとは違うんだなって思った

小さい頃に多くの人が悩むことってあるよね

それは本質的に同じことでも人に勝手にくくられちゃったらムカついちゃうようなデリケートな内容だったりして

そついうのって そついうのも含めて悩み事って結局は自分で解決するしかないんだけどさ

むかーしむかしに僕がそのつどそのつど選んだ選択肢は間違いだ
ったっばいなんて感じた いまさら

生憎 神様と知り合いつてわけじゃないから答え合わせとかはで
きないんだけど やっぱそうかなって思う

何を隠そう 僕はドジであるのだ

バイト先の先輩にもズバツと言われた

感想の前半は傷心に啞然として 後半はなんというか その言葉
の切っ先があんまり尖ってないみたいだったから安心しつつ同感も
しました

同感しとしてその直後に異論を唱えようとか考えて 果たしてバ
イト先の先輩による人間認識がいか程に信憑性を孕んでいるかとか
脳内議論しかけて挫折して納得をのみ込んだりした

世の中の的にやっぱちょっと僕はドジっ子である

いや ちょっと可愛くいつてみたけれど本質的には ばかちん

とか あほんだら とか

年配の方を考慮すると すかぼんたん とか おたんこなす とかの部類で もしかしたらの○太くんとかとマジで同じラインかもしれない

なんてね自分への手加減には手を抜かないけれども正直言つとあがりやな不器用へたれ壱号 です 報道規制により大幅に修正されています

つまりは何が良かったかというところ

ほとんどの人が悩むたびにだいたい同じ感じの答えに行きつくんだけど 僕はこれでもかというくらいに反対側を歩いちゃって来たって思っちゃうぜベイベ―

まあでもたぶんその瞬間に気づけたんだから 気づけたとしたら遠回りだっただけなんだろうなって

センスあるやつとか空気読めるやつとか常識をばっちりしあたまにインストールしちゃってるやつら的には余裕だったわけで 僕がたがいがいやらかしてここまで悩まなくていいことで悩んで遠回りでのつけがたぶんまだまだ残ってて裏技とかはなくて

それで いままでがそんなんだからやっぱりこれからもそれっぽい感じで生きていくのかなって その一瞬に感じたんだ

一瞬で感じ過ぎてそれを解読するのにはけっこうかかったけど気

づいてみて思ったのが

なんだ簡単じゃん

やべえ部屋の鍵閉めてくんの忘れた　・・・　いや閉めたよな
うん閉めてたわ

みたいな

ってね

神様がもしかしたら見かねて解答ばらばらして教えてくれたのか
もしないけどそれでもいいっす

軽くなっただ感じいろいろと

羽が生えたみたいなの？

まあさ　羽が生えたからって飛べないときは飛べないしだるいと
きは羽とかわんのやろうけどちょっと得じゃん？ね？

ポイント5倍みたいな感覚で得た安っぽい羽だけど身長を伸ばす

くらの心持で日々育てていこうと思います 選手宣誓！（という
より今年度の抱負的な） でもそしたら今年度はもう後半じゃん

心のカルシウムとかとってガンバろっかな

うんガンバろ

ゆったりとね

横断歩道を渡り終えた

nyokix2(後書き)

ツトメト

朝4時などに自主的に目を覚ますのは実はかなり久しぶりな気がする

何せ目的があるもんでね

レポートを書き書きして朝9時までに忌々しい提出用ポストにむしやむしや食べさせてあげなければならぬのだ

ポストくんが餓死するのは全くなまわらないんだけど僕自身が留年するのはまことにいかんであります

出席率悪いけど成績はいい(というキャラで通しておきたい)僕にとってはここは落とせない途中経過ゾーンなのだ

それはいいとして

最近めつきり冷え込んできて背中の中もなかなか成長率が上がらない

手先足先が冷えるのと一緒に羽先もけっこう冷えるんだわ

羽は能力「冷え性」を覚えた！

異常な冷気のせいにくしゃみによるガイーヌ序曲を朝っぱらから演奏するはめになる

入場無料にしてもただの近所迷惑だろう

迷惑をかけつつ近所を通りすぎて駅へ向かう途中の橋の上

見上げると

泡のような雲が火照っていた

まだまだ透明に近い蒼に浮かぶさつき生まれてきたみたいな新鮮な雲

その頬は始まりの色に染まり僕ではない方を見ていた

その光源を見つめていた

羽がうずく

ぱたぱたと飛べもしないのに小さなハバタキを始める

羽は正直だった

僕の妄想だけが宙を舞う

絵を描いてみたくなった

届かないなら届くところに描いてしまおう

なにせまだ頼りないハバタキ

便りがない空に返事だけ描こう

そしたら身体も少し軽いかも

ツトメト（後書き）

そしてレポートはあと6枚
＼（＾
―＾
）
／

神無月らいだー

歌をそれなりに本格的に練習し始めた

何故か？

人にきかせるからだ

そんなに歌うのが好きなら…（苦笑）と友人に薦められて某にここにできるサイトで歌わせてもらうことにした

ただ その人のニーズは幅広くてとてもじゃないけど持ち歌では足りなかった

だからきいてもらってる方々にリクエストをいただく

凄く凄くいい曲をたくさん教えてもらった

いろいろと素晴らしい

んだけどさ

かなり高度な曲ばかりで非常に難しくてキーも滑舌も息も追いつかない

悪戦苦闘中です

人にきかせられるものか自分でも疑問だし

悪い癖

身体のいらんところに力が入り雑な声が部屋と電脳世界と視聴者さんの耳に響く

役にもたたないのに羽をバタバタ動かしてそれこそまがく様に歌う

終わるとなんだかやるせなくなる

明らかに実力不足…

最初っから自己満足な行動に満足できなくてなんの意味がある？

だけでもだけでも

世の中には物好きな方々もいるようだ

知って間もない拙い僕の曲に拍手をくれる人がいる

僕はちよびつと救われた

終わってからちよつと泣きそうになったりした

しかもそのあとバイトで苦痛だったりもした

はずだったけどあんまりバイトも苦痛じゃなかったりした

羽が少し伸びた

ほんのすこしだけど

2ミリくらい？

でも心つばいものは明らかに軽くなっていた

精神的なナトリウムとかマグネシウムとかカルシウムとかバランスよく摂取できたのかもしれない

ぶつちやけ背中にあるから測るのかなりムズいんだよね

鏡の前で半裸で手を後ろに回すとか変態…

いや むしろ羽が生えてるから変体？

そんなどうでもいいことを気づいたら考えてる

あ、落ち葉を踏んだ

パリっという音がして趣を感じる

無性にポテチが恋しくなった

注意力と意識が散漫になって歌う自分との仲が円満になる

そして授業に堂々と遅刻してやる僕であった

神無月らいだー（後書き）

授業やっぱりいかないどころかなあ
…

と教室のまえでうつろ

シノメコーラス

誕生日を迎えた朝

若干背中が痛かった

きっと背中が伸びたのだろう　誕生日を経て成長なんてそれっ
ぱいじゃないか

そんなことはなかった（笑）

つか　布団の上に小さい白いのがいっぱいあって汚いんですけどな
んじゃこりゃ

そうです

抜け毛ならぬ抜け羽毛です

おいおいペットの世話じゃねえんだぞ

自分の抜け毛を気にする年齢には程遠いと侮っていた

これが19歳か

しみじみと年の瀬を解釈している中 時計の針が視界に入る

10時…だと？

比較的好戦的な現実逃避として時計を握り潰そうとした

ぐしゃ

美しいフォルムがアルミ缶のごとく原型を失う

そして思考も一緒にくしゃっと音をたてる

あれ？もしかして脳みそのしわ増えた？らっきー

あらぬところで幸福を感じていると

残酷なくらいぬくもりを提供してくれる布団のなかで眉間にしわを
よせている自分に気がついた

夢…か

遅刻する夢をみるとか何かの第一話みたいで清々しいなあ

19の朝はいつもと大きくは変わらず

またこの心も大きくは変わっていないようだった

柔らかい朝日に布団の天国地獄（釜茹で地獄とか針地獄的なニュアンスで）から救出してもらって立ち上がる

もしかしたら 今までの人生全てが夢で これから始まるのが本当の現実なのかもしれないと考える

おもしろい

リアル現実？

全てを仕切り直して今こそ始めようじゃないか

時計を見ると8時というリアルで深刻な時刻が申告されていた

人は本当はいつ生まれたんだろう

シノメコーラス（後書き）

誕生日に投稿したと思っていたのに・・・すっかりだわ

手術

羽が冷たく静かに疼く

もうすぐ 僕を大切に思ってくれている人が手術を受ける

命を揺らす手術だ

万が一とは言い切れない最悪の事態を思うと 行かないわけにはい
かない

笑顔を見せたい

例え運命がどちらに別れようと悔いない様な笑顔を

そんなこと考えて車の中で笑顔を練習するんだ

こんなことなら普段からもっと笑っておけばよかった

あの人はよく笑っていた

僕に少し似た顔で

違うね 似たのは僕の方だ

曇りきつた空にくつきり円を描いて光る朝日

厚い灰色をやすやすと突き抜ける黄色い輝き

耀き

貫け

羽は凍りついたまま

歩和歩和

気づけば年は開けて知らない間に初雪が過ぎた

どうだろう？

2011年1月11日はなんかネタに使えそうじゃない？

ゾロ目記念日リハーサルかな

10ヶ月後に本番です（キリッ

まあそんなこんなで羽はというと

うれしはずかし少しずつ成長中です

色はなんか茶色っぽくて白なのか黒なのかはっきりしない感じ

3日に一回は鬱になりかける思春期の感受性の高さをキープしつつ、
そこそこ余裕のある日々をおくりなう

オリジナル曲の作成やミキシングなどテラ音楽ライフ満喫してるか
と思えば万年スランプあられちゃん状態だったり

そういつつも歌いつづけてなにかをつかみかけていたり

やっぱり歌で評価を得たい

身の回りに助言をくれる方々もいてくれる

さらに本格的に歌唱力を上げる取り組みをしたいです

それが羽を伸ばすことに繋がってくと思える

いまはなんだか という声で という路線でやっていこうか迷
ってます

具体的になにを目指して力を伸ばすか

どんな羽にしたいか

思いを固めるにはまだまだ時間と経験が必要だけど

いつかこの皆さんにも聴かせられるくらいの力を得たいです

諦めないで続けていきたい

そして電車を逃すのでした

キラキラういんぐ

羽が輝き始めました

片方だけ

右側だけが純白に近い白に色づき、若干清潔なオーラを纏っています

左側はというと…いままでとかわらずに灰色じみて曖昧な色のままです

両方同じ色でいいんやけどなあ…

白黒で某遊戯王カードのやつみたいなどっちつかず天使みたいなるのは厨二臭くて嫌だしなあ

きっとこれは歌声のせいかと思う

ここまで来る間に自己流ながら様々な歌いかたを経てきた

そしてつい一週間ほど前から教本を買って基礎の基礎から学び直した

いままでの癖を潰すところから始まり発声法を人体構造を把握する段階から頭で理解してひたすら繰り返す

もちろんまだ一週間経っていないからきつと他人が聴いたらたいした変化はないだろう

それでも意識が変わったせいで少しずつかめている実感はある

そうして基本の基本を学び高音を出すとき、この歌いかたは数年前に経験したものに似ていると気づいたのだ

これが本来の自分の声か…
と思った

無論、未だ未完成の状態を踏まえてだけど

それは今まで求めてきた力強く響き渡るえせオペラがはっちゃけた
みたいなものとは違い

むしろ中性的でキモいんじゃないコレ？って具合の声だった

安定した音程を高音で出す際の感想だ

喉の脱力に関して不完全極まりないことがネックですが（だじやれです。本当にありがとうございます（笑））高音域を広げることで解消されるものとふんでいます

なんにせよ

もしこの声でいくのなら磨きに磨きをかけてとことん透き通らせてやりたいと思います

それまで低音域の歌唱法は保留ということだ

どうでもいいけど満員近い状態なのに僕の隣に誰も座らないのはなぜだろう…

そんなにいかつい顔してないと思うんだけど…

それとも服か…？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4408o/>

双羽 hutaba

2011年10月9日23時28分発行